

【ポスター発表】

在宅要介護高齢者の家族介護者における社会的ケア関連 QOL の特徴
—ASCOT 介護者版 (the Adult Social Care Outcomes Toolkit) を用いて—

○国立保健医療科学院 大冨賀政昭 (6668)

柿沼倫弘 (国立保健医療科学院・7882)、森山葉子 (国立保健医療科学院・8635)

森川美絵 (津田塾大学・3249)、重田史絵 (立教大学・7279)

キーワード3つ: 家族介護者、社会的ケア関連 QOL、家族介護者版 ASCOT

1. 研究目的

わが国の要介護高齢者は今後も増加することが予測されている。要介護者の68%に家族等介護者が存在するという国民生活基礎調査のデータを基に単純推計すると、463万人が主な介護者として介護を担っていることになり、家族介護は大きな社会課題である。

介護を担うことによる家族介護者の社会関係の縮小は、QOL (Quality of Life) の低下や抑うつを引き起こし、地域社会における継続的な介護の提供を困難にするばかりではなく、介護者自身の身体的・精神的健康を阻害し、社会生活全般に支障をきたすことが指摘されている (涌井 2021)。これまで我が国の家族介護者の QOL については、健康関連 QOL や主観的 QOL を用いて調査が行われていた。昨今、社会的ケアに関連する QOL の実態を明らかにする研究が国際的に進められ、これを測定できる日本語の尺度も開発されている。

そこで英国で開発された ASCOT 介護者版 (the Adult Social Care Outcomes Toolkit) の日本語版 (森川美絵ら 2018、山口・松澤 2023) を用いて、在宅要介護高齢者の家族介護者における社会的ケア関連 QOL の特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

研究の視点: 本研究では、在宅要介護高齢者の家族介護者における社会的ケア関連 QOL の特徴を明らかにすることを目的とした。

方法: 複数事業所を運営する1法人の事業所にて、介護サービスを利用する者およびその家族を対象とした2022年8月から11月に実施されたASCOT (介護者版および利用者版) を含む調査データの提供を受けた。本研究では、このデータのうち、居宅介護支援サービスを受ける在宅要介護高齢者とその家族で、ASCOTの回答に欠損のなかった438世帯のデータを用いた。分析は、家族介護者の性別、被介護者との続柄・同居有無、介護期間といった対象者の基本属性に加え、項目別ニーズ有無 (4段階: Ideal state, No needs, Some needs, High-level needsのうち下位2つをニーズありと定義) とASCOTの回答からSCR-QOL得点を算出した (Shiroiwa et al 2022)。また、家族介護者のSCR-QOL得点と利用者版ASCOT 9項目から算出したSCR-QOL得点 (Shiroiwa et al 2020) の関連については、相関係数を算出し、検討した。家族介護者のSCR-QOL得点と主観的健康感 (5件法) および「日本語版WHO-5 精神的健康状態表」 (0-25点) やその他属性の差の有無をt検定にて、検討した。

3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会研究倫理規程を遵守して行われ、国立保健医療科学院の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：NIPH-IBRA#12371）。本演題に関連して、開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

家族介護者の属性について、性別は男性 30.6%、女性 69.4%であった。被介護者との続柄は配偶者・パートナーが 41.3%と最も多く、次いで自分の母親が 37.2%であった。同居の有無は、同居 80.6%。別居 19.4%であった。平均介護期間は 5.51 年（SD±5.16）であった。ASCOT 項目（家族介護者版）ごとの「ニーズあり」の割合は、「余裕の有無」が 35.4%と最も高く、次いで「社会参加と関与」25.6%であった。家族介護者の SCR-QOL 得点の平均値は 0.79（SD±0.19）であった。家族介護者と利用者の SCR-QOL 得点の相関係数は 0.15（ $P<0.01$ ）であった。主観的健康感の 2 群別の家族介護者の SCR-QOL 得点は、健康群（健康、どちらかといえば健康）0.84、非健康群（どちらともいえない、どちらかといえば健康でない、健康ではない）0.69 であった（ $P<0.01$ ）。WHO-5 の 2 群別の家族介護者の SCR-QOL 得点は、健康群（13 点以上）0.87、非健康群（13 点未満）0.70 であった（ $P<0.01$ ）。

5. 考察

本研究により、在宅要介護高齢者の家族介護者における社会的ケア関連 QOL の特徴が明らかとなった。家族介護者とサービス利用者の社会的ケア関連 QOL の相関は弱く、家族介護者の社会的ケア関連 QOL の主観的健康感や精神的健康との関連性が示された。このことは、要介護高齢者だけでなく、家族介護者本人の状況（社会的ケア関連 QOL を含む）を評価した上での支援の必要性を示唆していた。要介護高齢者の在宅生活の継続性を高めるためには家族介護者の役割が重要であり、今後は社会的ケア関連 QOL の要因に係る分析や事例集積による家族介護者の支援手法の検討等が求められるものと考えられた。

文献

涌井智子. (2021). 在宅介護における家族介護者の負担感規定要因. 社会保障研究, 6(1), 33-44.

森川美絵ら. (2018). 社会的ケア関連 QOL 尺度 the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) の日本語翻訳 言語的妥当性の検討. 保健医療科学, 67(3), 313-321.

山口麻衣, 松澤明美. (2023). ケアラーへの包括的な支援: ケアラーアセスメントを軸としたツール開発と評価からみえた課題. ルーテル学院研究紀要, (56), 57-69.

SHIROIWA, T, et al.(2022). Japanese preference weights of the Adult Social Care Outcomes Toolkit for Carers (ASCOT-Carer). Quality of Life Research, 31(7), 2143-2151.

SHIROIWA, T, et al.(2020). Development of Japanese utility weights for the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) SCT4. Quality of Life Research, 29(1), 253-263.